

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まめっこハウス		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年2月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 23
○従業員評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年2月19日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童に対して職員は十分な人員配置で支援している。	祝日や長期休暇の際、外出を行っているが、ほマン ツーマンで対応している。	今後も十分な人員配置で支援していく。
2	利用児童に分かりやすい構造や環境になっている。	学習する部屋、遊ぶ部屋等に区切られていて段差を クッション性のあるものにする等バリアフリー化を 進めている。	定期的に環境のチェックを行い今後もバリアフ リー化を進めている。
3	保護者との連携をしっかりと行い職員間でも情報共 有を図っている。	保護者にはその日のうちに、どんな様子で過ごして いたか報告しご家庭の様子も共有している。 職員間では研修等を通じて共有	保護者との連携に今後も大切にし情報共有を図る。 職員間の研修やミーティングはより活発なものに なるように努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業運営があまり図られていない。	事業所自体建物の規模が小さく駐車場も不十分であ る為、地域の方々を招待することが難しい状況であ る。	招待する彷徨でなく、利用児童と職員で行ってい る清掃活動を継続することで地域に貢献していく。
2	保護者同士で交流する機会を設ける等の支援が行き 届いていない。	新型コロナが流行した時期以降、交流する危害を設 けていなかった。	今後、保護者会の開催やきょうだい同士で交流す る機会を設けることについて検討していく。
3	第三者による外部評価の機会を設けることが難しい。	外部評価を受ける機会をどのように設定すべきか検 討している段階である。	今後外部からの意見を取り入れていく。

(別紙4)

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果 児発

事業所名	まめっこハウス		公表日	8年 3月 19日		利用児童数	8年 3月 1日		回収数	8	
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応					
環境・体制整備	1	8			部屋は多いが人数が多いと狭く なってしまふ。	過密にならない様に3部屋に分散し たり外遊びに出ます。活動の種類が					
	2	7	1		何人対して何人か知らない。	まめっこ通信等でお知らせします。					
	3	7	1		活動によって空間を使い分けて 頂いている印象です。						
	4	8			きちんと整理されている空間だ と思います。						
適切な支援の提供	5	8			活動を通していろいろな気付き を家でも持って帰れることがで						
	6	8									
	7	8			しっかりと対話をもって個別支 援計画を作成いただいております						
	8	7	1		目標を高く設定すること なく適切に設定して頂いていま						
	9	8			普段の活動おとしこんだ計画 を設定していただいていると思						
	10	8									
	11	3	2		3						
	12	8			利用する際だけでなく放デイ移 行後についても説明がありまし						
	13	8			実際に活動としてどのような遊 びで促していくかまでお話しして						
	14	6	1		1	事業所などの先生向けの研修の 内容なども共有していただいで					
	15	8			とてもしっかりやって頂けている。 日頃から園での様子をはじめ就学						
保護者への説明等	16	8			親として迷っている悩んでいる ことにも相談にのって頂いてい						
	17	8			一定の先生ではなく全ての先生 が子どものことを理解してくれ						
	18	4	1	1	2	特に希望していない。特に必要 としていない。モニタリングの 際にきょうだいのことについて	将来的に開催を予定しています。				
	19	7	1			ケースによっては園が小学校に 確認すべきことはスムーズに対 応頂けています。	面談・メール・送迎時のお話等で対 応させて頂いています。				
	20	8				子どもにとってどうしたらコ ミュニケーションが取りやすい					
	21	8				毎月のおたよりで情報をお知ら					
	22	8									
非常時等の対応	23	7	1		マニュアルの周知とともに、更 新された園もお知らせ頂いてい	面談時にお話をさせていただきます。訓 練の様子はまめっこ通信に記載して					
	24	6	2			定期的を実施しております。					
	25	8									
	26	8			事故だけでなく、ヒヤリハット実 体(手を出しそうなったり)等も説明						
満足度	27	8			車に乗る時からリラックスしてい ます。						
	28	8			渋りもなく楽しめています。						
	29	8			とてもよく考えられた活動内容だと思 う。きめ細やかな指導で親も安心して						

公表 事業所における自己評価結果 発表

事業所名	まめっこハウス		公表日	令和8年 3月 19日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14		学習する部屋、遊歩廊等区分けられて良い	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数等は適切であるか。	14			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14			
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	12	2	研修やヒヤリハットの共有等がある	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	1		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	6		
	10 職員の資力の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14		ご家族に支援の様子などを報告している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14			
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	1		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域連携・地域連携」のいずれも盛り込まれているか。また、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	3		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14			
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	1		
関係機関や保護者との連携	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	14			
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	1		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しが必要かを判断し、適切な見直しを行っているか。	14			
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	13	1		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	3		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(給付部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1		
	27 移行時の移行の際には、小児科や特別支援学校(小児部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1		
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
保護者への説明等	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言を受けられる機会を設けているか。	10	4		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	4		
	33 日報からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	14	0		
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	3		
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14			
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、相談や必要な助言と支援を行っているか。	14			
	39 父母の会の活動や支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	5		
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14			
非常時等の対応	41 定期的に連絡等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動観察や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	1		
	42 個人情報取扱いに十分留意しているか。	14			
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を行っているか。	9	5		
	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14			
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に訓練、救出その他必要な訓練を行っているか。	14			
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14			
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	13	1		
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分な中で支援が行われているか。	14			
50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく定期的な内容について、家族等へ周知しているか。	14				
51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	14				
52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14				
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14				